

# デザインのコンセプト（詳細）

## ■ 尾道のまちなみに溶け込む空間づくり

- ≫ 日本の鉄道の黎明期から愛され続けてきた歴史ある尾道駅として、初代尾道駅舎（明治24年当時）の“瓦屋根”や“深い軒”といった特徴的な形態や色彩を踏襲した外観とします。
- ≫ プラットホーム上部に張り出し、屋根勾配を工夫することで、尾道水道が紡いだ中世からの箱庭都市に即した建物形状とし、尾道のまちなみと融和したデザインとします。

## ■ 尾道の風土を活かした空間づくり

- ≫ 1階のコンコース空間は、山と海の空気を感ずることができるよう、駅舎中央部分に設け、南北に抜ける開放的な空間とします。  
また、せとうち地域の晴天が多い気候を活かし、コンコースに大きな吹抜け空間とトップライトを設け、自然光を駅舎内に導入します。
- ≫ 2階の眺望デッキは、その上部にあたる駅舎南側の屋根を大きくくり抜いたようなデザインとすることで、尾道水道の景色を“借景”として楽しむことができる眺望空間とします。  
また、海・空・風を直接肌で感じていただくことができます。

## ■ 多様な人々が集うコミュニティの場の創出

- ≫ 駅・宿泊施設・諸店舗などを利便性に配慮した施設配置とすることに加え、待合スペースや眺望デッキなどの“憩いの空間”を充実させることで、ご利用いただくお客様や地域の皆様などに駅舎内でゆっくりお過ごしいただける心地よい空間を生み出します。
- ≫ 駅舎内の様々な施設を、“吹抜け内の渡り廊下”、“コンコース内の階段やエレベーター”、“東側の階段”でつなぎ、多様な楽しみ方ができる空間にします。